



「一部教科担任制」の導入の取組について

北九州市教育委員会

1 「一部教科担任制」の導入までの経緯

平成30年度まで

- 小学校全校で学級担任以外による専科指導を実施
- 一部の学校で中学校教員が専科指導を実施

これらの取組に加えて

令和元年度

- 中学校教員が小学校に異動し学級担任をもつ
「一部教科担任制」を一部の学校で導入

6年1組の1日の時間割のイメージ <学年3 学級規模の場合>

校時	教科	担当	
			6年1組の 学級担任 6年全学級の国語を担当 A教員
1	国		5年2組の 学級担任 5・6年全学級の社会を担当
2	社		理科の 専科指導教員 5・6年全学級の理科を担当
3	理		6年2組の 学級担任 6年全学級の算数を担当
4	算		外国語の 専科指導教員 3～6年全学級の外国語を担当
5	外		6年3組の 学級担任 5・6年全学級の体育を担当 B教員
6	体		中学校から異動した教員

2 北九州市における「一部教科担任制」のシステムの概要について

6年1組の学級担任が担当する授業

< 1週間あたり >

学年3 学級規模の場合

A教員



- ◆ 6年1組の学級担任
- ◆ 6年全学級の国語を担当

★は各教科担任が授業を行う教科

	★	★	★	★			★		★			
	国	社	算	理	音	図	体	家	外	道	総	特
担当	○				○	○		○		○	○	○
単位時間	15				2	1		2		1	2	1

週 5 単位時間 × 3 学級

A教員

授業時数

空き時間

担当教科が絞られる

空き時間ができる



2 4

5

4

2 北九州市における「一部教科担任制」のシステムの概要について

6年3組の学級担任が担当する授業

< 1週間あたり >

学年3学級規模の場合

B教員



◆ 6年3組の学級担任

中学校から
異動した教員

◆ 5・6年全学級の体育を担当

★は各教科担任が授業を行う教科

	★	★	★	★			★		★			
	国	社	算	理	音	図	体	家	外	道	総	特
担当					○	○	○	○		○	○	○
単位時間					2	1	18	2		1	2	1

週3単位時間
×6学級

B教員

授業時数

空き時間



2 2

7

小学校免許をもたないため授業を担当することはできない。

「一部教科担任制」の導入による効果①

- ◆担当教科数が絞られるため、教員は教材研究を深めることができる
- ◆教科担任の教科では、複数回授業を行うことができるため、授業改善につながる
- ◆空き時間が生まれるため、教員は空き時間を教材研究や授業準備、豆テストの採点、生徒指導などの時間に活用することができる
- ◆学級の枠を超えて授業を行うため、児童を学年の全教員で育てる意識が高まる

「一部教科担任制」の導入による効果②

- ◆1つの学級で複数の教員が授業を行うため、児童の良さを様々な視点から発見できる
- ◆児童に複数の教員が関わるため、児童にとって学習や学校生活などの相談ができる教員が増える
- ◆1人の教員が全学級の授業を担当するため、担当する教科では、学級間の学習指導の差が少なくなる

「一部教科担任制」の導入の課題

- ◆ 中学校から小学校に異動した教員の教育課程や児童の発達の段階等の理解に時間がかかる
- ◆ 学級を越えて授業を行ったり、学級担任以外の教員が授業を行うため、学年全体で時間割を作成することになり、時間割作成に戸惑うなど今までにないシステムへの不安がある
- ◆ 中学校から小学校に異動した教員は、小学校の免許を取得していない場合、担当できない授業がある